

令和7年度 第二回地域連携推進会議

記録者：川村 裕希

日 時：令和7年7月30日(水)

場 所：相模福祉村 たんぽぽの家 2階食堂

出席者：田名地区社会福祉協議会顧問

社会福祉法人風の谷 やまびこ工房施設長

たんぽぽの家保護者

たんぽぽの家利用者

たんぽぽの家 赤間理事長、岩津事務長、岩崎課長、佐々木相談員、川村相談員

1、出席者紹介

出席者全員の自己紹介

2、地域連携推進会議について

今一度会議の概要と趣旨、重要性について説明。

3、相模福祉村たんぽぽの家について

●現在の利用状況

- ・入所は現在満床、各ユニットでの課題と取り組みについて資料を基に説明。
- ・生活自立は高齢化、重度化が課題。機能低下の予防に取り組んでいる。
- ・社会自立は本人が望む生活に近づけるよう支援をしており、昨年度は1名グループホームへ入所された。

●2025年度たんぽぽの家事業目標

①職員育成

→全法人施設の職員を対象に行う「スタンス研修」や法令研修など様々な内容を年間通して計画、実施している。

②利用者支援

→昨年度は「利用者を知る」ことに重点を置き、記録に残した。それを踏まえ今年度は「生活の意向聞き取り」として現在、支援課では意思決定支援に伴い一人ひとりの生育～生活史を入れ込んだシートを作成。また一人ひとりが意思決定に不足となっていた課題「意思の形成」が行えるよう、社会に出て“知る”機会を増やしていき、範囲を広げ選択が出来るよう取り組みを行っている。

→(風の谷 西村様)国の考えと現場の考えに乖離がある。現場としては利用者にもっと選択が出来るようにいろんな体験をさせてあげたい。

●非常災害取り組みについて

災害発生時の法人施設内の連携や体制について説明。他、建て替え中に伴い場所も限られるが地域へ災害時に施設の活用について協議。

→視覚障害でのマニュアルは未だない。有事は行政での割り振りで動くとしているのが現行となっている。

→付随して福祉避難所としての場所把握と民生委員の参加も必要と思う意見もあり。

●利用者の権利擁護

地域からの苦情として多かったものは“車両”に関してのものが多かった。福祉村全体を通して今後も安全運転に向けた啓蒙活動や研修を実施していき、車両事故止に力を入れていく。

また、たんぼぼの家での事故件数は年間 207 件あった。一番は食事関係(配膳や調理ミスなど)が多く、所持品管理やケガ、服薬管理と続いた。今年度はマニュアル遵守と職員間での情報共有を徹底。ヒヤリハットの活用を増やし事故発生件数の減少に努める。

●今後の利用者の活動(資料より)

→旅行について(保護者より)

親も高齢になってきており帰宅しても中々お出かけも出来難い中、外出に行ってお下さるだけでもありがたい。

→フライングディスク大会(ご利用者より)

幼少期より嗜んでいたフライングディスクの全国大会へ出場。

→また、8 月には田名ふるさとまつりや障害者作品展などにも参加する。

4、地域情報の共有

(田名地区社協顧問)

“和い輪い田名”での交流について

是非皆さんに活用をしてほしい、交流しながら社会参加の機会を増やしてほしい。

→川村より現在のたたき案ではあるが“プランター作成”について提案。

※和い輪い田名で行っている“ベンチ作り”からヒントを得て、廃材を利用したプランターカバーを作成。プランターの中身はたんぼぼの家農芸グループで管理しながら花を育てていき交流も図ろうというもの。

この件に関しては、風の谷とも合同でもどうか？との話も出たため近日中にもう少し細かな計画案を作成する予定。

5、施設内見学

午前中の活動の様子を見学される。

園庭工事風景から現在の施工状況の説明

生活介護の様子を中心に見学される。